

授業科目名	英語	実施時期	1年 前期・後期
授業回数	90分×30回	単位・時間数	4単位 60時間
担当者名	岡崎 京子		
<b>【授業の概要・目的】</b> ・医療現場での会話を動画で見て、患者さんに寄り添いつつ英語で指示・説明することを学ぶ ・コミュニケーションのための英語を重視する			
<b>【到達目標】</b> ・医療現場で使う会話表現を英語で行えるようになる ・患者さんの話す英語を聞き取ることができる			
回	授業内容	回	授業内容
1	Chapter1 Welcoming a Patient	16	Chapter7 Review & Medical
2	Chapter1 Welcoming a Patient(2)	17	Chapter7 Review & Medical
3	Chapter2 Taking vital Signs	18	Chapter8 Personal Care
4	Chapter2 Taking vital Signs(2)	19	Chapter8 Personal Care(2)
5	小テスト 他の教材	20	小テスト 他の教材
6	Chapter3 Pain Assessment	21	Chapter9 Giving Medication to a patient
7	Chapter3 Pain Assessment(2)	22	Chapter9 Giving Medication to a patient(2)
8	Chapter4 Feeling So Sick!	23	Chapter10 Elimination
9	Chapter4 Feeling So Sick!(2)	24	Chapter10 Elimination(2)
10	小テスト 他の教材	25	小テスト 他の教材
11	Chapter5 Transferring a Patient	26	Chapter11 Chronic Diseases
12	Chapter5 Transferring a Patient(2)	27	Chapter11 Chronic Diseases(2)
13	Chapter6 Medical Departments	28	Chapter12 Critical Care
14	Chapter6 Medical Departments(2)	29	Chapter12 Critical Care(2)
15	小テスト 他の教材	30	小テスト 他の教材
授業形態	講義、ペア活動	評価方法	小テスト、期末テスト、予習状況、提出物など
教科書	『Talking with Your Patients in English』平野 美津子／成美堂		
参考書	辞書(電子辞書可)必ず持参		

授業科目名	人間科学	実施時期	1年次 前期
授業回数	90分×7回	単位・時間数	2単位 30時間 (うち14時間)
担当者名	折谷 隆志		
<b>【授業の概要・目的】</b> 本講は「生命の起源とはなにか」、「人の祖先はどこからきたのか」、「生物学はどのように発展してきたのか」など生命に関する基本的知識を深めると共に微生物、植物、動物からなる生態系の中で私達人類もまた進化と遺伝の法則に従う生命体として理解することにある。			
<b>【到達目標】</b> 生物学の諸分野を勉強する為には、生命を構成する化学物質である DNA、蛋白質などを基礎として「遺伝の仕組み」、「ゲノム説」と共に、「生物の進化」などを理解することを目的とする。			
回	学 習 内 容		
1	生命の起源		
2	人類の起源と進化		
3	生物学の歴史		
4	生命の化学		
5	遺伝の仕組み		
6	ゲノム説と人類遺伝子		
7	進化		
授業形態	講義	評価方法	筆記試験
教科書	『図解 人類の進化 猿人から原人、旧人、現生人類へ』 斎藤 成也、他／講談社		
参考書			

授業科目名	人間科学	実施時期	1年次 前期
授業回数	90分×8回	単位・時間数	2単位 30時間 (うち16時間)
担当者名	大島 徹 (工学博士)		
<p>【授業の概要・目的】</p> <p>理学療法を学び臨床で実践していく上でヒトの動作原理や運動療法などの原理を理解できるように、基礎物理学の中から力と運動に関する基礎的な見方や考え方を身に着ける。</p>			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力と運動の基礎的な取り扱いについて理解できる。</li> <li>・ヒトの力と運動について一般化して考えられるようになる。</li> </ul>			
回	学 習 内 容		
1	物理学の重要性、物理量と単位系 ベクトルとスカラー、三角関数		
2	力とつり合い、作用・反作用 滑車		
3	力のモーメントとつり合い てこの原理		
4	演習		
5	等速直線運動、等加速度運動、運動方程式		
6	仕事とエネルギー		
7	撃力、慣性力、遠心力		
8	演習		
授業形態	講義	評価方法	演習、試験を総合的に評価する。
教科書	資料配布		
参考書	『新しい高校物理の教科書』山本 明利 他著／講談社ブルーバックス 『マンガでわかる物理 力学編』新田 英雄 他／オーム社 『らくらくマスター物理基礎・物理』／河合出版 など		

授業科目名	心理学	実施時期	1年次 前期
授業回数	90分×15回	単位・時間数	2単位 30時間
担当者名	大石 昂		
<b>【授業の概要・目的】</b> 「病は気から」とも言われるように、心と体は密接につながっている。その「心」について科学的な理解を得るために必要な心理学の基礎と方法を広く学ぶとともに、パーソナリティ検査を体験し、自己理解を深める。			
<b>【到達目標】</b> ①心理学の基礎知識を習得する ②心理学の tool を利用して自己認識を深める			
回	学 習 内 容		
1	心理学史 心の謎		
2	感覚と知覚 1 視る		
3	感覚と知覚 2 聴く		
4	感覚と知覚 3 知覚の障害		
5	学習と記憶 1 条件づけ		
6	学習と記憶 2 学習（運動学習を含む）		
7	学習と記憶 3 記憶		
8	思考		
9	パーソナリティ 1 性格検査・性格判定		
10	パーソナリティ 2 パーソナリティ理論		
11	動機づけと感情 行動の仕組み・理性と感情		
12	心理的サポート・集中力・あがり・プレッシャー・スランプ・ヒューマンエラー		
13	心理測定 1 見えないものを測る		
14	心理測定 2 心を測る工夫		
15	心理的コンディショニング、イメージトレーニング		
授業形態	講義	評価方法	レポート、学期末試験
教科書	『心理学 心のはたらきを知る』梅本堯夫、ほか／サイエンス社		
参考書			

授業科目名	哲学	実施時期	1年次 前期
授業回数	90分×15回	単位・時間数	2単位 30時間
担当者名	市村 俊信		
<b>【授業の概要・目的】</b> 「哲学する」ことの楽しさやせつなさを実感することがこの講義の目的です。身近にあってふだんからよくわかっていることを、あらためて考え直してみる訓練を通じて、思考や行為といった日々の暮らしの営みに潜む「言葉」の姿をあぶり出していきます。そのうえで、私たちの言葉を通じたふるまいが、世界や環境においてどのように発現するのかを確認していきます。私たちの使う言葉の価値、言葉がもたらす力を、ていねいに探っていくことになります。			
<b>【到達目標】</b> 「哲学する」ことができるようになること。これがこの講義に参加するみなさんの「目標」です。自分の興味や関心にそって問題を見つけ、それを正しい問いとして立て、自身で解答を導きだす。このような学問の過程を「哲学する」という作業によって具体的な訓練を積みながら身につけていきます。手がかりのために先人の言葉を参考にしながら、自分の周囲で他人がどのようにふるまい、自身の記憶がどのような姿かたちをとっているのかを、自分自身でじっくりと考えてみる、そういういわば実習の機会がこの講義です。そうした作業を通じて、興味のあること、関心をもった問題について、豊かにしなやかに考えられるようになることが、この講義におけるみなさんの達成すべき目標となります。			
回	学習内容		
1	思い浮かべたリンゴはどこにあるのか。「～がある」をめぐる問い		
2	ことばの意味と使い方。ウィトゲンシュタイン『哲学による探求』1		
3	ことばの意味と使い方。ウィトゲンシュタイン『哲学による探求』2		
4	ことばの意味と使い方。ウィトゲンシュタイン『哲学による探求』3		
5	私の世界とあなたの世界。言葉と世界の分節		
6	世界の内と外。「～である」をめぐる問い		
7	ことばの意味と使い方。ウィトゲンシュタイン『哲学による探求』4		
8	人間の自然。ホッブス『リヴァイアサン』		
9	最大幸福。ベンサム『精神および立法の原理への序論』		
10	ものと記憶をめぐる意識の事実。ベルクソン『物質と記憶』1		
11	ものと記憶をめぐる意識の事実。ベルクソン『物質と記憶』2		
12	ものと記憶をめぐる意識の事実。ベルクソン『物質と記憶』3		
13	ものと記憶をめぐる意識の事実。ベルクソン『物質と記憶』4		
14	運と力、世界の始まり		
15	運と力、世界の終わり		
授業形態	配付資料（事例紹介）を用いた講義	評価方法	レポート
教科書	適宜資料配付		
参考書	配付資料に記載		

授業科目名	社会学	実施時期	1年次 後期
授業回数	90分×15回	単位・時間数	2単位 30時間
担当者名	藤田 公仁子		
<p><b>【授業の概要・目的】</b>  現代社会を捉える社会学的なものの方、自分たちの生活を構成する要因、自分と他者との関係性など「社会」の基礎的な枠組みやシステムを理解し、地域社会における医療・福祉の現場における視点を深めます。</p>			
<p><b>【到達目標】</b>  現代社会の諸問題を自分なりの視点で考え、社会学の基本的な考え方と基礎概念を正確に理解することを培うことです。この授業では、複雑に変容した現代社会の動向と、諸現象に対する関心を深め、幅広く考察し、社会学的な視点から考えることができるようになることを目標とします。</p>			
回	学 習 内 容		
1	社会学的な視点で考える		
2	現代社会を考える（社会システム、集団の社会学）		
3	生活課題・地域課題と地域づくり		
4	家族とジェンダー		
5	ボランティア・NPO活動とソーシャルキャピタル		
6	地域文化の伝承と地域活動		
7	災害支援と市民活動		
8	格差社会の中で貧困を考える		
9	医療、福祉と自己決定		
10	文化と再生産		
11	生涯学習社会の意義と実践（リカレント教育の実践）		
12	社会問題を考える		
13	地域医療と生活課題		
14	環境社会学の現代的展開		
15	現代社会学の様相		
授業形態	講義	評価方法	レポート
教科書	なし		
参考書	必要に応じて講義の中で紹介します。		

授業科目名	保健体育	実施時期	1年次 前期
授業回数	90分×15回	単位・時間数	2単位 30時間
担当者名	中村 拓人（理学療法士、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）		
<b>【授業の概要・目的】</b> 現代社会におけるスポーツ（運動）の意義と価値を理解するとともに、スポーツ実施に必要な知識と技術の習得を目標にする。			
<b>【到達目標】</b> ・「保健」、「スポーツ」分野の基礎知識を得る ・スポーツ活動を通じて、スポーツごとに特有な動作について理解を深める ・基礎的テーピング技術を正しく理解し、実践できる			
回	学 習 内 容		
1	スポーツ現場における安全・健康管理、スポーツ外傷・障害予防の概念		
2	スポーツ現場における、スポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態		
3	安全・健康管理に影響を及ぼす要因		
4	性別がスポーツに及ぼす影響		
5	年齢・特性がスポーツに及ぼす影響		
6	感染症		
7	環境がスポーツに及ぼす影響		
8	スポーツ動作実技（走動作、跳動作、方向転換動作：バスケットボール）		
9	スポーツ動作実技（走動作、跳動作、方向転換動作：バスケットボール）		
10	スポーツ動作実技（投球動作、打撃動作：ソフトボール）		
11	スポーツ動作実技（投球動作、打撃動作：ソフトボール）		
12	テーピング実技（アンダーラップ、アンカー）		
13	テーピング実技（足関節）		
14	テーピング実技（膝関節）		
15	テーピング実技（その他）		
授業形態	講義、実技	評価方法	授業態度、技術習得度
教科書	『アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』公益財団法人日本スポーツ協会		
参考書	『リファレンスブック』公益財団法人日本スポーツ協会		

授業科目名	人間関係論	実施時期	3年次 後期
授業回数	90分×8回	単位・時間数	1単位 15時間
担当者名	高沢 由美		
<b>【授業の概要・目的】</b> 職業人として必要な意識の醸成、人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身に付ける			
<b>【到達目標】</b> ・自己理解を深め、職業人になるためのモチベーションを高める ・効果的なコミュニケーション法を理解し、臨床現場で実践する			
回	学習項目	学習内容	
1	職業人意識	社会人・職業人の社会的役割と責任	
2		職場での人間関係	
3		自主性・組織理解	
4		職業観・キャリアデザイン	
5	コミュニケーション応用	自己PR、論理的話の展開	
6		話し方の基本	
7		聴き方の基本	
8		ビジネスコミュニケーション	
授業形態	講義、演習	評価方法	受講態度、授業で行う実習等総合的に判定して行う
教科書	資料		
参考書			